

「若い世代を呼び込みたい」

日本が高齢社会といわれて久しく、そのど真ん中にいる団塊の世代が高齢社会の中心にいるような年齢構成となっています。いみじくも、本会の平均年齢はそれとおりであり、シニア世代がコンクール出吟の中心であり、大会などの諸役の多くをシニア世代が担っていたいています。なんとか若い世代を呼び込みたいと思っています。

私の住んでいる神戸市では少子化や教職員の負担軽減を背景に、これまで学校単位で運用していた中学校の部活動を民間団体などに移行する取り組みが来年から実施されます。その登録状況の新聞報道がありました。我々詩吟に関わる者としてそうした活動を活用すればと思うのですが、指導者が高齢であることや会の維持が精一杯であったりし余裕がないなど、まだ登録までいっていないのですが、他の自治体もいずれそうした施策が取られるであろうと思い、情報提供させていただきます。若い指導者に若い会員が集まるとよく言われます。新人獲得とともに若い指導者を待望しています。

ところで、コロナの時代は詩吟活動にとって暗い時代でしたが、リモート活用ということを残してくれました。会議であれ研修であれ、詩吟の世界では親先生が口伝で教えていたものをリモート指導に変え、それが定着しているところもある。



総本部会長 古田 哲壮

ります。ただ、今普通の生活に戻ったとき、対面での指導・会議・研修に戻すことが多くなりましたが、リモートの良さも取り入れ。それぞれの目標に応じた対応が必要かと思えます。

毎年、年度初めの登録会員数の発表に一喜一憂してきました。令和7年度の期首人員は前年度よりかなりの減少でした。予想していたといえ、厳しい状況が続いています。総本部は令和7年度も「新・再入会促進キャンペーン」を引き続き行い、新入会者再入会者の入会金は免除とします。また、会員増員に資する吟詠普及推進事業には支援してまいります。さらに、新教場立ち上げに際する支援もあります。なんとか会員減少に歯止めをかけたいと思っています。

さて、総本部での令和7年度メイン行事として、今秋2025全国吟詠大会in大阪を開催してまいります。令和3年の開催以来となります。師範代以上の新指導者の皆さんには舞台で吟じていただきます。この事業はもとと実施していた師範大会を継承したかたちの大会です。この取り組みが会員獲得へのきっかけとなればと思っています。一般来聴を設けるとともに、全員参加のもと、会員の皆さんにとって楽しい大会になるよう願っています。